

みらいん

わかばやし

「みらいん」は、
震災からの復興に向けて
歩むまち・仙台の“ひと”と“地域”の
今を結ぶ情報紙です。



◀アドバイスし合いながら、
楽しくお買い物。
素敵な春物が購入できて
大満足!

今月の
ひと

七郷中央公園仮設住宅

仲良しグループの皆さん

ラジオ体操が結んだ友情!

春の気配が色濃くなってきたある日。若林区内の衣料品店に、賑やかなご一行が到着しました。

「このエプロン素敵だねえ」「こっちのピンクの方が似合うよ」。楽しげに買い物をする皆さんは

七郷中央公園仮設住宅と、近くの借り上げ民間賃貸住宅にお住まいの仲良しさんグループ。

今日はこちらの衣料品店と近くのスーパーをハシゴして、お買い物を楽しむプチツアーです。

グループで集まるきっかけとなったのは、集会所で毎朝行われているラジオ体操。

「ラジオ体操へ参加していた人たちが、毎日顔を合わせるうちに仲良しになったんですよ。

そのうち、集会所のお茶飲みだけでなく、買い物ツアーやお花見などのイベントをするようになりました」

とは、イベント企画の取りまとめをする元仮設住宅常駐職員の高見京子さん。この日は欠席したものの

「隆君!」と呼ばれ愛される、唯一の男性メンバー、七郷中央公園仮設住宅自治会長の佐藤隆さんは、

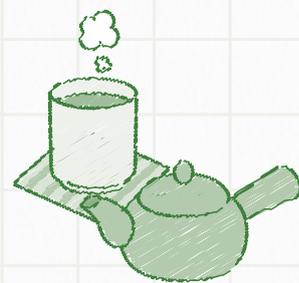
「老いも若きも関係なく集まって、楽しく和気あいあいとやるのが一番。みんなとても仲良しで、

お茶飲みしていると集会所の雰囲気も明るくなっていいね」と気さくに話します。

「皆さんは、仮住まいの暮らしの中で気の置けない大切な仲間を見つけました。

今後、別々に暮らすことになっても精神的な支えになると思います。

他でもこんな集まりが増えていくといいですね」と笑顔の高見さんでした。



2012

5

第6号

「交流サロン」で楽しくおしゃべり



同郷の「仲間の輪」が広がります!

「市内浸水地域の方」「親子で避難している方」など近い境遇の方が集まって、一緒にお茶を飲んだりおしゃべりしたりします。このサロンがきっかけでお友達になった方も多数。元々顔なじみだった方が、震災で転居後に再会したという方もいます。時にはお茶飲みに加えて、花の寄せ植えを楽しむサロンなども行っています。

参加者の感想



鈴木一蔵さん

交流サロンに顔を出せば、誰かしら顔見知りと会えるのがいいねえ。他の人の近況とか、地域の情報も入ってきやすいしね。私はあつべとつべり言っただけで、皆喜んで話を聞いてくれてうれしいよ(笑)。いろんな人と会えて楽しい時間を過ごせるから、これからもなるべく顔を出していきたいねえ。



早川はつせさん

家族と一緒に暮らしていますが、日中はみんな仕事に出ていて私1人なんです。交流サロンでは、皆さんとお話ができるので、家の中にひとりであるよりも気持ちが明るくなったような気がします。ご近所だった方も、震災以来初めて会うことができました。昔のことを話しながら楽しい時間を過ごしています。

支えあいセンターからのお知らせ

常設の支えあいセンターができました

現在、市民センターなどを巡回して相談に応じていますが、5月から宮城野区、若林区、泉区に常設の支えあいセンターを開設します。皆さんの都合のよい曜日に、ぜひおいでください。

常設支えあいセンター場所:

宮城野区:原町3-5-32 コーポゼン1F

若林区:若林区中央市民センター別棟(保春院前丁3-4)

泉区:泉社会福祉センター内(七北田字道48-12)

開所時間:8:30~17:00/相談受付:9:30~15:00/休:日・月曜日、祝日の翌日、年末年始

支えあいセンターからお知らせが届いていない方へ

借り上げ住宅にお住まいの方を対象に、巡回相談や交流サロンの日程など、支えあいセンターからのお知らせをダイレクトメールでお送りしています。ご希望の方は支えあいセンターまでご連絡ください。

「情報コーナー」は常時設置

気になる情報をどんどん集めよう



市内の市民センターのほとんどにラックを常設し、巡回相談がない日でも、気になる情報が得られるようにしています。「住宅」「仕事」「貸付」「福祉」「生活」など18の区分に分かれた、約50種類の情報が集まっています。「こんな情報がほしい」などの要望にも応じています。

若林区内 巡回相談スケジュール

相談受付時間:9:30~15:00 相談無料

センター名	曜日	日程
七郷市民センター Tel.022-288-8700	毎週金曜日	5月11・18・25日 6月8・15・22・29日
荒町市民センター Tel.022-266-3790	毎週水曜日	5月16・23・30日 6月6・13・20・27日
六郷市民センター Tel.022-289-5127	毎週水曜日	5月16・23・30日 6月6・13・20・27日
沖野市民センター Tel.022-282-4571	毎週土曜日	5月12・19・26日 6月2・9・16・23・30日
若林市民センター Tel.022-282-4541	毎週火曜日	5月15・22・29日 6月5・12・19・26日
JR南小泉アパート会議室 Tel.なし	月2回	日程未定

皆さんの悩みや相談事など、何でも遠慮なくお話しください。また、借り上げ住宅にお住まいの方を支援したいとお考えの地域の方々に対しても私たちは手助けをしています。
庄子健一 所長



※区内の他の巡回相談や交流サロンのスケジュールは、支えあいセンターから送るダイレクトメールでご確認ください。他区の開催日については、中核支えあいセンターにお問い合わせください。

借り上げ民間賃貸住宅に
お住まいの皆さん!

支えあい
センター
とは?

支援の手が届きにくいと言われる、借り上げ民間賃貸住宅(以下、借り上げ住宅)にお住まいの方々のための支援事業です。次の3つの柱で、借り上げ住宅の皆さんを支えています。

社会福祉法人 仙台市社会福祉協議会の 「地域支えあいセンター」を 活用しましょう。

①巡回相談

借り上げ住宅での暮らしの中で起こる悩みや困りごとを相談員が聞いて、一緒に解決の道を探ります。

②交流サロン

同じ地域から避難している方や慣れない土地で困っている方などが集まって開催する交流サロンです。お茶を飲みながら、参加者同士で同郷の話をしたり今の悩みを共有したりできる時間です。

③情報コーナー

巡回相談で使用している市民センターを含む市内59カ所にラックを設置し、支援制度情報や地域情報などを閲覧、配布できるようにしています。

中核支えあいセンター:仙台市青葉区五橋2-12-2 仙台市福祉プラザ4階 TEL.022-217-7234

2 相談コーナー

佐藤さんを担当した相談員の高橋なか子さん(写真左)、武田信子さん



畳敷きの和室には長テーブルが2つ。庭に面した窓からはたっぷりと日が射し、開放的な雰囲気です。

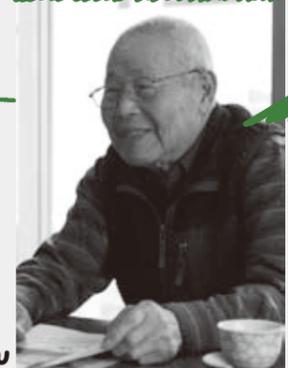
1 出発

ご夫婦2人で若林区に住む佐藤さん。日々愛する地元・三本塚の復興について考えています。



若林区区内7カ所の相談会場がありますが、佐藤さんはご自宅近くの若林市民センターへ。巡回相談のことはチラシと市役所の窓口で知りました。

佐藤 勝五郎さん



3 お茶っこ飲み・新聞読み



新聞も読めます

1週間分の河北新報、福島民報、福島民友などを見ることができます

相談の後はお茶を飲みながら世間話を。常備してある新聞を読んだり、おしゃべりしながらお茶飲みしたりと、相談が無くても気軽に立ち寄れます。

体験してみで...

三本塚のことや復興公営住宅、バス運行のことなど、どこに話をしたらいいのかと思っていたことをここで相談できてよかった。こんな話の中から何かしら復興につながるというねえ。(佐藤さん)

これまでの相談例 このように対応しました。

Aさん(80代・女性)

入居先の新聞の回収日、出し方が分からないと相談がありました。お話を聞いていくと、震災前は民生委員の訪問を受け地域のサロンにも参加していたので、現在住んでいる地域の民生委員につないでほしい、という希望があることが分かりました。そこで区の社会福祉協議会を通して担当する民生委員に連絡を取り、訪問を行っていただきました。

Bさん(70代・女性)

移り住んだ地域に知り合いがなく、支援の情報を求めて相談に見えられました。地域のサロン(健康教室)の案内を渡しお誘いしたところ、参加希望があり、サロンに参加することになりました。

Cさん(60代・女性)

足が悪いため借り上げ住宅のお風呂が使いづらいと相談。相談員が近くの入浴施設9カ所を載せた手作り地図をお渡ししたところたいへん喜ばれ、その後は入浴施設を利用しているという報告がありました。

「巡回相談」を体験してみました

巡回相談ってどんな感じ? 現在若林区の借り上げ住宅にお住まいの方が、区内の市民センターで開催する巡回相談を体験取材しました。

3日(土) 長〜いのり巻きに挑戦!
(JR南小泉仮設住宅)



ひな祭りに合わせて作ったのは、なんと5メートル70センチの長いのり巻き。「せ〜のっ」で一斉に巻き上げ。恵方巻き風にかぶりついていたど皆さんでした。

16日(金) 演劇鑑賞
(演劇工房10-80X)

東京の劇団が被災者を招待した舞台公演「煌星天女」。会場には俳優や東京公演のお客さんからの応援メッセージが書かれた短冊が貼られました。



20日(火・祝) マグロ解体ショー
(ニッパリア仮設住宅)

東京浅草で「たいご茶屋」を営む若林区出身の嵯峨完さんが、築地から運んできたマグロの解体ショーを開催。新鮮な刺身に皆さん大喜びでした。



7日(水) 春カフェ
(荒井7号公園仮設住宅)

スターバックスが各仮設で開催したカフェ。クリームや牛乳を泡立て、いつもと違うコーヒーに感激。



8日(木) 手作り市
(菜師堂)

卸町5丁目公園仮設住宅の手作りクラブが出店。目玉商品・和柄のティッシュケースが好評でした。



10日(土) 被災語る「きく／はなす」会
(東京都小金井市bloom&bloom)



荒浜の松木さんと山元町の齋藤さんが、東日本大震災を風化させない為の集いに招かれ、都内から集まった約60名の方々と対話をしてきました。

11日(日) 荒浜合同慰霊祭
(深沼海水浴場)



深沼海水浴場に建てられた慰霊碑の前で合同慰霊祭が執り行われ、遺族など約1,800人が参列し犠牲者の冥福を祈りました。慰霊祭の後、七郷中学校と荒浜小学校の卒業生有志が企画した風船飛ばしが行われ、花の種と復興への希望を乗せた約700個の風船が荒浜の空へ飛ばされました。

29日(木) 被災地でジャガイモ栽培
(荒浜)



津波に浸かった被災地でジャガイモの栽培が始まりました。編集部は種芋切りをお手伝い。2日間に渡り、2畝の田んぼに約3.5トンの種芋が植え付けられました。

30日(金) 赤いベベ着て荒浜を見守る「子安地蔵」
(荒浜・浄土寺)



「お墓を見に行ったら、お地藏さんが元の位置に戻っていたのを見つけたの」。津波で流されたものの、無傷で荒浜の浄土寺に戻ったお地藏さんを前に住民のたかこさんが語ります。「子安地蔵といって、安産やいぼ取りのご利益があり、皆さんよくお参りにきてました」と秀宣住職。「お地藏さんは荒浜の皆の心の支えだったから、地域を見守るために助かったんだよねえ。裸だと寒いかなと思って」。たかこさんは真っ赤なおべべを作り奉納し、この日は新たに作った賽銭袋を住職と一緒に地藏さんにかけて。住民に愛され続けるお地藏さんは、赤いおべべに身を包み、これからも同じ場所で荒浜を見守ります。

まちの語り場

集団移転、単独移転、現地再建…。沿岸部にお住まいの方は今、お住まいの再建に向けて地域ごとに話し合いを進めています。このコーナーでは、それぞれの団体に話し合われている内容についてお知らせします。

荒浜再生を願う会

荒浜に戻って生活再建を目指す住民有志が中心となって活動しています。



▶荒浜再生を願う会の支援者から届いた黄色いハンカチを、荒浜の再生への願いを込めて立てています

4月2日(月) 定例会議

- 内容
- 仙台市へ公開質問状を提出
 - 黄色いハンカチ設置増(現在22カ所)
 - 沿岸他地域との連携

当日の様子 前回の会議で、代表が二瓶氏から貴田氏へ交代しました。荒浜の歴史や文化、そしてふるさとを守るためには、集団移転以外にも選択肢があっても良いだろうという主旨で、今後も仙台市との話し合いを続けるということが協議されました。また、荒浜地区だけでなく仙台市内の沿岸地区と話し合いを持つ事を課題とし、南蒲生や井土、藤塚地区と連絡を取りあうように話し合いました。

問い合わせ先: 代表 貴田喜一 090-8254-4270
定例会議: 毎週月曜日19:00~ 荒井小学校用地仮設集会所

荒浜移転まちづくり協議会

集団移転の早期実施と移転後の荒浜の地域コミュニティ再生を目的としています。



▶多くの参加者が活発な意見を交わす定例会議で、今後の課題なども新たに考えてきました

4月6日(金) 定例会議

- 内容
- 4月11日(水)市へ提出する要望書の内容確認
 - 津波被害に対する支援拡大を要求
 - 借地の場合は、一律50年間借地料免除を要求
 - 復興公営住宅の想定家賃再考を要求など
- 8項目

当日の様子 住民アンケートを実施し集計中であることや、4月15日の「まちづくりフォーラム」に向けて、会員への参加呼びかけについて話し合いました。今後の課題として、まちづくりの具体案を分かりやすく作成し、話し合いのベースにするよう協議しました。

問い合わせ先: 代表 末永薫 090-8782-7812
定例会議: 毎週金曜日19:00~ 荒井小学校用地仮設集会所

明日の三本塚を考える会

東六郷地区における農地と宅地の一体的な整備や住民主体のまちづくりを目指しています。



▶まちづくりのワークショップでは、皆さん活発な意見を交わしていました

3月18日(日) 六郷東部地区住まい・街づくり学習会
藤塚や荒浜からも約50名参加

- 内容
- 住民への聞き取り調査の中間報告
 - 東六郷地区の地域性についての講話
 - 自宅の再建やまちづくりについて話し合い

当日の様子 さまざまな境遇の方々が、希望や夢を語り合うことで、地域の将来像が浮かび上がりました。住居と農業のあり方について、参加者が積極的な意見交換を行う場として学習会を活用し、東六郷地区の再生と活性化を話し合いました。

問い合わせ先: 代表 小野吉信 090-3122-4843
会議、学習会は自由参加、随時開催

● 息子が鍋沼に立派な家を建て直してくれる。それまでは死んでなるものか！ 今は死ぬの忘れちゃったよ。居根根ときれいな庭があったんだ。亡くなったコレ(親指を立てる仕草)に復興を土産に持っていくの。

宮城野区/松岡みいこさん

● 集会所の横にあった自動販売機が、契約終了で撤去されてしまいました。ワンコインで利用できる人気者だっただけに残念。撤去作業中、思わ

読者からひとこと

● 工場と家が流されてしまいました。金銭面から工業団地移転は現実的ではないです。仕事を続けるためにも、一番の理想は深沼の工場を再建して、その横にわしと犬が生活できる小屋を建てることです。

太白区/遠藤さん

● 業者さんに「今までありがとうございまして」と挨拶しちゃいました。

太白区/遠藤さん

若林区/山本靖一さん

被災地レポート

取材地

復興を目指す板金屋さん (今泉地区)

津波被害に遭いながらも
直後から板金業を再開

周りには田畑が広がり、以前は農機具などを置いていた今泉地区の農家の作業小屋が、昨年のゴールデンウィークごろには板金屋さんとして生まれ変わり、現在に至っています。

「有限会社 嶺岸建築板金」さんです。種次地区にあった自宅兼作業場が、津波で流されてしまい、農作業小屋を仮設の作業場として急場をしのいでいるのです。がれきの中から見つけ出された看板が、入り口に立てかけられています。

落ちていた釘に注意しながら足を踏み入れると、さまざまな作業具や板金を加工するために設置された二台の機械が所狭しと置かれています。社長の嶺岸隆幸さんは「震災後すぐに仕事を再開しました。自分たちの状況は楽ではなかったですが、震災被害で仕事は山のようにありましたから。なじみの取引先から次々と注文がきて、三週間後あたり



農作業小屋を仮の作業場にして、板金業を再開しました

からずと休みなしで職人たちと現場に向く日々が続きました」と、振り返ります。

両親と家族四人全員の命は助かったとはいえ、家と作業場、車、すべての家財が流され想像を絶するほどの苦労があったはず。新たに住む場所や衣食の確保という喫緊の課題を抱えながら事業を再開した嶺岸さんら職人たちは、当初は屋根瓦の養生や瓦落しなどの仕事をこなし、現在は瓦屋根を板金屋根にふき替える作業を中心にさまざまな依頼を請け負っています。震災後新たに

仕事ができる環境に感謝し、 地域復興に心血を注ぐ

二人の職人を雇い、嶺岸さんを加えて常時六人体制で作業をこなしています。平均年齢は三十歳前後。高齢化が進む板金業界の中では貴重な若手職人がそろった会社でもあります。

両親と暮らしていた嶺岸さんの自宅兼作業場は、海から直線距離1キロぐらいのところがありました。今、家の前を通る県道塩釜亘理線の向こうには、津波でかろうじて残った防砂林がわずかの本数、ポツリポツリと見えます。整地された家の敷地の一角には、唯一残った低木の松の木が、心なしか寂しげに命をつむ



種次にあった自宅兼作業場跡。きれいに整地された約300坪の敷地の東側に、唯一松の木が残っていました

自分も被災者には違いないけれど、仕事を早くに再開できる環境があったし、自分ができることをやって手助けになりたい気持ちが強かった。ずいぶんと思われていると思う。仕事は大変だけど仕事ができる立場なんだから不満は言えない。地元地域、沿岸地域などの復旧、復興のちからになって周囲を元気にしたい」とも語ります。

嶺岸さんは、すべてが失われた種次地区の土地に戻って暮らすことを夢見ています。「長く住みなれた土地だから、自宅があったあの場所に、新しく仕事場を構え、家を建て、そして、自分たちのこれからの生活を築いていきたい」。



職人たちが複数で共に作業をこなします。「震災直後の忙しさは、親父の会社を継いでから初めて」と嶺岸さん

情報掲示板

仮設住宅やご近所で開催される催し物や相談会、支援団体による支援情報などを紹介します。

支援情報提供サービス

被災した方向けのイベントや支援物品提供などボランティアセンターに届いた支援情報を、パソコンや携帯電話にメール配信しています。

対象 借り上げ民間賃貸住宅にお住まいの方

申込方法 2月の復興定期便に封入した申込用紙に必要事項を明記しFAX、郵送、持参。またはパソコン、携帯電話からのメールで①～③を明記して送信。①氏名、性別、生年月日、年齢、住所、世帯人員、連絡先電話番号 ②情報提供するパソコンか携帯電話のメールアドレス(申込者本人以外でも可、その場合申込者との続柄と連絡先電話番号を明記) ③緊急連絡先の希望(申込者本人、もしくはメールアドレス登録者、その他のいずれか)。

問 仙台市青葉区五橋2-12-2仙台市福祉プラザ4階 仙台市ボランティアセンター・復興支援「EGAO(笑顔)せんだい」サポートステーション
TEL022-266-6805 FAX022-216-0140
Eメール: sendai-vc@poppy.ocn.ne.jp
http://www.ssvc.ne.jp

被災者のコミュニティ支援の助成制度を創設

仙台市は、東日本大震災の被災者のコミュニティ形成に向けた事業に対して助成を行います。

対象となる事業

- ・コミュニティ形成・活性化に資するまつりやイベント
- ・自主的な勉強会、講演会
- ・生きがいづくり支援 など

対象団体 応急仮設住宅などにお住まいの方が属している町内会や東日本大震災の被災者が中心となって構成された団体など

助成金額 1事業あたり10万円限度※一部助成対象外経費あり

助成期間 平成24年4月～平成25年3月

応募窓口 各区まちづくり推進課

問 022-282-1111(内線6137)若林区まちづくり推進課

022-291-2111(内線6137)宮城野区まちづくり推進課

022-247-1111(内線6138)太白区まちづくり推進課

健康相談などのお知らせ

電話：022-282-1111(若林区家庭健康課・障害高齢課)

相談名	開催日	時間	会場	内容	担当	問合先
母と子の健康相談	5月25日(金) 5月11日(金)	13:30～14:30 9:30～10:30	若林区役所3階 六郷保健センター	育児の心配や母と子の健康についての相談	保健師・栄養士・歯科衛生士	家庭健康課 内線6772
子どものこころの相談室	5月10日(木) 5月24日(木)	午後・予約制	若林区役所3階	震災後の子どものこころの健康に関する相談(要予約)	児童精神科医	
こころの健康相談	5月10日(木) 5月18日(金) 5月24日(木)	13:30～16:00	若林区役所3階	こころの健康に関する相談(要予約)	精神科医師・精神保健福祉相談員・保健師など	障害高齢課 内線6752
震災こころの相談	随時 (土日祝日除く)	8:30～17:00	若林区役所1階窓口 など	震災によるストレスやこころの相談	保健師など	障害高齢課 内線6307
高齢者総合相談	随時 (土日祝日除く)	8:30～17:00	若林区役所1階窓口 など	高齢者の健康や介護・福祉の相談	保健師など	障害高齢課 内線6307
健康づくり講話	5月16日(水)	13:30～14:30	若林区役所3階 健康教育室	『健康的な食生活の基本～嗜好品をとり過ぎていませんか?～』	家庭健康課 栄養士	家庭健康課 内線6785
健康づくり相談		14:30～15:30		健康相談	保健師・栄養士・歯科衛生士など	

出前講座を開催します

東北財務局では、振り込み詐欺などの金融犯罪被害に巻き込まれない日頃の心がけを説明する出前講座を行っています。仮設住宅集会所や市民センターなどにおかがいしますので、ご希望の方はお問い合わせください。

対象 どなたでもご利用できます

問 東北財務局 金融監督第三課

仙台市青葉区本町3-3-1 仙台合同庁舎4階
022-266-5703(直通)、022-263-1111(内線3080)



復興支援

～ライオンズスポーツフェスティバル～

スポーツを通じて楽しい思い出を作る1日です。ニュースポーツを中心に、インストラクターとさまざまな競技をします。学校ごとのオリジナルTシャツもプレゼント! プロスポーツ選手も参加するかも?

対象 震災で被災し校舎が使用できない沿岸部3校(荒浜、中野、東六郷)の児童と保護者

内容 競技種目にキンボール、ドッチビー(アルティメット)、ポッチャのニュースポーツ。その他フリースローなど

送迎 個別に直接お越しいただいても構いませんが、当日は送迎バスも用意しますので事前に申し込んでください

昼食 事前に申込みしたご家庭にお弁当を用意します

時 5月26日(土)9:00～15:00(8:00送迎場集合)

所 キリンビール仙台工場体育館、イベント会場

問 022-398-3904ライオンズクラブ国際協会332-C地区
キャビネット事務局(佐藤、菊地)

復興支援 ござinわかばやし

～つくて、あそんで、楽しんで～

若林区を育んできた、魅力の水辺空間。「ございん」の言葉で、水、音、光が織り成す幻想空間に集まろう!

対象 どなたでも参加できます

内容 手作り灯ろうの灯りの幻想的雰囲気の中、作る、食べる、見る、聞くをお楽しみください。ございん市も開催!

時 5月26日(土)15:00～20:00(予定)

所 若林区役所南側ふるさと広場

※駐車場がないため公共交通機関をご利用ください

問 090-4047-0238 ござinわかばやし実行委員会(佐藤)

けんこうコラム

からだ編

□福とは五感を感じて

美味しく食べること

お口で食べ物を食べるとその栄養は満腹感につながり、美味しいと感じることは満足感となります。私は歯科医ですが、お口は幸福を感じる入り口だと考えています。このとき、より多く幸福を感じるには五感を上手に使うことがカギとなります。美味しく新鮮そうな真っ赤なリンゴ！まずは目でみます。「視覚」です。リンゴのいいにおいだ、これは「嗅覚」。次は「触覚」ですがこれは皮膚の感覚とお口の中の歯で感じる食感の2種類に分けられます。そして甘くてちょっと酸っぱいな、これは「味覚」ですね。シャキッとリンゴをかじり、お口の中ではシャリ、シャリと咀嚼します。ここで感じるのが「聴覚」です。これらの刺激が神経を通して脳に届き「美味しい」と感じます。五感を上手に使うことは脳をたくさん刺激することにつながり、体に入った栄養は心も体も健康にし、そして美味しいと感じたことが「□福」となります。ぜひ食事はゆっくり落ちついて、良く噛んで楽しい時間にして頂けるといいと思います。お口と歯から始まる健康生活はじめてみませんか。

旭ヶ丘ジュン歯科 歯学博士 柏崎 潤

柏崎 潤 (かしわざき じゅん)

日本睡眠学会認定歯科医、クリニック内で『ジュン先生の歯学教室』を開催するなど、歯と健康に関するトータルアドバイザーでもある。ホームページ <http://www.junshika.jp/>

クロスワードパズル

出題 石田竹久

こたえ

A	B	C	D	E	F
---	---	---	---	---	---

1	2	3	4		
5	D	6			
			7	B	8
	9	10			
11	C			12	F
		13			
14		E		15	A

タテのカギ

- ①盛大なパレードなどで初夏の仙台市を熱気に包み込む、○○○まつり
- ②上杉謙信の故事による言葉、敵に○○を送る
- ③タカ派に相対する、○○派
- ④やたらと浪費する意味なのは、○○○のように使う
- ⑥『OH! バンデス』の司会の宗さんといえば、○○○宗幸
- ⑦ゴルフの前半9ホールはアウト、では、後半9ホールは?
- ⑧仙台から鳴子温泉などへと向かう、奥の細道湯けむりライン。ここを6月まで走るイベント列車が、リゾート○○○
- ⑨ササニシキやひとめぼれなど、宮城県を代表する農産物
- ⑩伊達政宗公の孫にあたる光宗公の菩提寺で、「バラ寺」とも呼ばれる、○○○○院
- ⑪ひとつの事に熱中し、心を奪われてしまう状態
- ⑫実物大のロケット模型が壮観。角田市にあるスペースタワー・コスモ○○○
- ⑬笑う○○には福来たる

ヨコのカギ

- ①目的地に着いてからさらに遠くへと向かうのは、○○を伸ばす
- ③3月のフィギュアスケート世界選手権で3位で表彰台に。仙台の新たな星、○○○○結弦
- ⑤モロヘイヤによる町おこしで知られ、支倉常長メモリアルパークがある、黒川郡○○○○町
- ⑦賀茂神社、ユアテックスタジアム仙台などがあるのは○○○区
- ⑨県庁や定禅寺通りにほど近く、市民の憩いの場となっている、勾当台○○○
- ⑪みやぎの明治村や油麩井が有名な○○市
- ⑫裁縫にも注射にも欠かせない物
- ⑬映画のことを、かつては○○○○写真と呼びました
- ⑭東京都から仙台市を通過して青森県まで。日本最長の○○○○は4号線
- ⑮気仙沼市の十八鳴浜といえば、鳴き○○で有名

前回のこたえ

A サ B ク C ラ D サ E ク

でした。

1	シ	2	サ	3	マ	4	エ
5	ヨ	ア	ケ	7	ク	8	テ
9	ウ	ン	メ	10	イ	11	ド
12	ジ	13	マ	14	フ	ラ	ー
	15	ユ	16	カ	17	ジ	ク
18	ト	19	イ	ク	20	サ	モ
21	ホ	ク	ト	22	ワ	タ	リ

編集後記

吹く風の匂いが、春を感じさせるようになりました。様々な旅立ちや決断を迎える季節でもあります。新しい環境に向かう方々へ高浜虚子の俳句から「春風や鬨志いだきて丘に立つ」(きくち)

およそ20年ぶりに折った鶴。次はどうだっけ?と頭で考えるより指先がその感覚を覚えていたようです。作った数羽は荒浜の慰霊塔に奉納する千羽鶴の中に混ぜてもらいました。(さとう)

情報提供のお願い

「みらいん」は、皆さんと一緒に作り、歩む情報紙です。紙面に対するご感想や、紹介したい人や場所、今抱えている思いなどのコメントをハガキ、FAX、メールでお寄せください。読者の皆さんの思いを、紙面に反映していきます。

送付先: 〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-12

「みらいん」編集部

F A X : 022-390-5756 e-mail : kawara@mmmm.or.jp